

## 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2013 に準拠して作成

ロイコトリエン受容体拮抗剤

—気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤—

**モンテルカスト OD錠 5mg「武田テバ」**

**モンテルカスト OD錠 10mg「武田テバ」**

Montelukast OD Tab. 5mg・10mg “TAKEDA TEVA”

モンテルカストナトリウム口腔内崩壊錠

剤形	口腔内崩壊錠
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	○モンテルカスト OD錠 5mg「武田テバ」 1錠中：モンテルカストナトリウム……………5.2mg (モンテルカストとして5.0mg) ○モンテルカスト OD錠 10mg「武田テバ」 1錠中：モンテルカストナトリウム……………10.4mg (モンテルカストとして10.0mg)
一般名	和名：モンテルカストナトリウム (JAN) 洋名：Montelukast Sodium (JAN)
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 発売年月日	製造販売承認年月日：2016年8月15日 薬価基準収載年月日：2016年12月9日 発売年月日：2016年12月9日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	販売：武田薬品工業株式会社 製造販売元：武田テバファーマ株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	武田テバファーマ株式会社 武田テバDIセンター TEL 0120-923-093 受付時間 9:00～17:30（土日祝日・弊社休業日を除く） 医療関係者向けホームページ <a href="https://www.med.takeda-teva.com">https://www.med.takeda-teva.com</a>

本 IF は 2019 年 4 月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページ <http://www.pmda.go.jp/> にてご確認ください。

# IF 利用の手引きの概要

— 日本病院薬剤師会 —

## 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、（独）医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ（<http://www.info.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

## 2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IF の様式]

- ①規格は A4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

#### [IF の作成]

- ①IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」（以下、「IF 記載要領 2013」と略す）により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

#### [IF の発行]

- ①「IF 記載要領 2013」は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

### 3. IF の利用にあたって

「IF 記載要領 2013」においては、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体の IF については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

### 4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月改訂)

# 目 次

I. 概要に関する項目	1	VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	20
1. 開発の経緯	1	1. 警告内容とその理由	20
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	20
II. 名称に関する項目	2	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	20
1. 販売名	2	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	20
2. 一般名	2	5. 慎重投与内容とその理由	20
3. 構造式又は示性式	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	20
4. 分子式及び分子量	2	7. 相互作用	20
5. 化学名（命名法）	2	8. 副作用	21
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	9. 高齢者への投与	22
7. CAS登録番号	2	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	22
III. 有効成分に関する項目	3	11. 小児等への投与	22
1. 物理化学的性質	3	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	22
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	13. 過量投与	22
3. 有効成分の確認試験法	3	14. 適用上の注意	22
4. 有効成分の定量法	3	15. その他の注意	23
IV. 製剤に関する項目	4	16. その他	23
1. 剤形	4	IX. 非臨床試験に関する項目	24
2. 製剤の組成	4	1. 薬理試験	24
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	4	2. 毒性試験	24
4. 製剤の各種条件下における安定性	5	X. 管理的事項に関する項目	25
5. 調製法及び溶解後の安定性	7	1. 規制区分	25
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	7	2. 有効期間又は使用期限	25
7. 溶出性	8	3. 貯法・保存条件	25
8. 生物学的試験法	12	4. 薬剤取扱い上の注意点	25
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	12	5. 承認条件等	25
10. 製剤中の有効成分の定量法	12	6. 包装	25
11. 力価	12	7. 容器の材質	25
12. 混入する可能性のある夾雑物	12	8. 同一成分・同効薬	25
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	12	9. 国際誕生年月日	25
14. その他	12	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	25
V. 治療に関する項目	13	11. 薬価基準収載年月日	26
1. 効能又は効果	13	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の 年月日及びその内容	26
2. 用法及び用量	13	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	26
3. 臨床成績	13	14. 再審査期間	26
VI. 薬効薬理に関する項目	15	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	26
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	15	16. 各種コード	26
2. 薬理作用	15	17. 保険給付上の注意	26
VII. 薬物動態に関する項目	16	XI. 文献	27
1. 血中濃度の推移・測定法	16	1. 引用文献	27
2. 薬物速度論的パラメータ	18	2. その他の参考文献	27
3. 吸収	18	XII. 参考資料	28
4. 分布	19	1. 主な外国での発売状況	28
5. 代謝	19	2. 海外における臨床支援情報	28
6. 排泄	19	XIII. 備考	29
7. トランスポーターに関する情報	19	その他の関連資料	29
8. 透析等による除去率	19		

# I. 概要に関する項目

## 1. 開発の経緯

モンテルカストナトリウムは、アレルギーのメディエーターの1つであるロイコトリエン (LT) の受容体のうち、CysLT<sub>1</sub>受容体に選択的に結合して抗アレルギー作用をあらわす、CysLT<sub>1</sub>受容体遮断薬である。

弊社は、後発医薬品としてモンテルカスト OD 錠 5mg・10mg「武田テバ」の開発を企画し、薬食発 1121 第 2 号 (平成 26 年 11 月 21 日) に基づき規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、2016 年 8 月に承認を取得、2016 年 12 月発売に至った。

2016 年 11 月、「気管支喘息」の効能・効果及び用法・用量が追加された。

## 2. 製品の治療学的・製剤学的特性

1. 本剤は、水なしでも服用可能な口腔内崩壊錠 (オレンジ風味) である。水分摂取が制限されている患者や、嚥下困難な患者、高齢者でも服用しやすい剤形である。

2. 気管支喘息、アレルギー性鼻炎に適応を有している。

(「V-1. 効能又は効果」の項参照)

3. 本剤は、使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないのでいずれも頻度は不明であるが、重大な副作用として、アナフィラキシー、血管浮腫、劇症肝炎、肝炎、肝機能障害、黄疸、中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis : TEN)、皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群)、多形紅斑、血小板減少があらわれることがある。

(「VIII-8. 副作用」の項参照)

## II. 名称に関する項目

### 1. 販売名

#### (1) 和名

モンテルカスト OD 錠 5mg 「武田テバ」  
モンテルカスト OD 錠 10mg 「武田テバ」

#### (2) 洋名

Montelukast OD Tab. 5mg・10mg “TAKEDA TEVA”

#### (3) 名称の由来

主成分「モンテルカスト」より命名

### 2. 一般名

#### (1) 和名（命名法）

モンテルカストナトリウム（JAN）

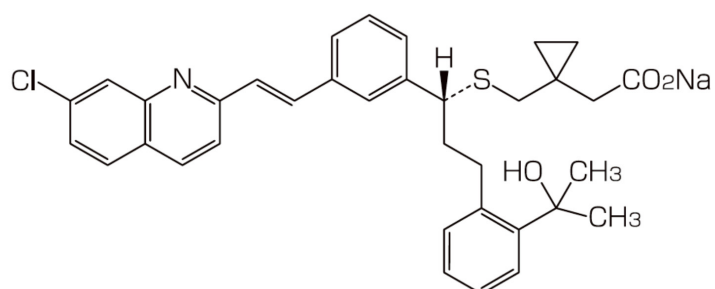
#### (2) 洋名（命名法）

Montelukast Sodium（JAN）

#### (3) ステム

-lukast：ロイコトリエン受容体拮抗薬

### 3. 構造式又は示性式



### 4. 分子式及び分子量

分子式：C<sub>35</sub>H<sub>35</sub>ClNNaO<sub>3</sub>S  
分子量：608.17

### 5. 化学名（命名法）

Monosodium(1-[[[(1*R*)-1-{3-[(1*E*)-2-(7-chloroquinolin-2-yl)ethenyl]phenyl}-3-[2-(1-hydroxy-1-methylethyl)phenyl]propyl)sulfanyl]methyl]cyclopropyl)acetate

### 6. 慣用名、別名、略号、記号番号

該当しない

### 7. CAS 登録番号

151767-02-1

### Ⅲ. 有効成分に関する項目

#### 1. 物理化学的性質

##### (1) 外観・性状

白色～微黄白色の粉末である。結晶多形が認められる。

##### (2) 溶解性

メタノール及びエタノール（99.5）に極めて溶けやすく、水に溶けやすい。

##### (3) 吸湿性

吸湿性である。

##### (4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

該当資料なし

##### (5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

##### (6) 分配係数

該当資料なし

##### (7) その他の主な示性値

該当資料なし

#### 2. 有効成分の各種条件下における安定性

光によって黄色に変化する。

#### 3. 有効成分の確認試験法

日局「モンテルカストナトリウム」の確認試験法及び別法による

- 1) ナトリウム塩の定性反応
- 2) 紫外可視吸光度測定法（吸収スペクトル）
- 3) 赤外吸収スペクトル測定法（ペースト法）
- 4) 粉末 X 線回折測定法

#### 4. 有効成分の定量法







日局「モンテルカストナトリウム」の定量法による

液体クロマトグラフィー

## IV. 製剤に関する項目

### 1. 剤形

#### (1) 剤形の区別、外観及び性状

販売名	性状	外形		
		表	裏	側面
モンテルカスト OD 錠 5mg 「武田テバ」	白～淡黄色の 口腔内崩壊錠			
		直径：6.5mm、厚さ：3.1mm、重量：100mg		
モンテルカスト OD 錠 10mg 「武田テバ」				
		直径：8.0mm、厚さ：3.8mm、重量：200mg		

#### (2) 製剤の物性<sup>1) 2)</sup>

(参考：＜無包装状態での安定性試験＞の試験開始時の硬度)

販売名	硬度 (kgf)
モンテルカスト OD 錠 5mg 「武田テバ」	2.4
モンテルカスト OD 錠 10mg 「武田テバ」	4.1

#### (3) 識別コード

販売名	PTP 識別コード	薬物本体識別コード
モンテルカスト OD 錠 5mg 「武田テバ」	TV M1	TV M1 / 5
モンテルカスト OD 錠 10mg 「武田テバ」	TV M2	TV M2 / 10

#### (4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等 該当しない

### 2. 製剤の組成

#### (1) 有効成分（活性成分）の含量

- モンテルカスト OD 錠 5mg 「武田テバ」  
1 錠中：モンテルカストナトリウムを 5.2mg 含有  
(モンテルカストとして 5.0mg)
- モンテルカスト OD 錠 10mg 「武田テバ」  
1 錠中：モンテルカストナトリウムを 10.4mg 含有  
(モンテルカストとして 10.0mg)

#### (2) 添加物

アスパルテーム (L-フェニルアラニン化合物)、アラビアゴム末、クロスカルメロースナトリウム、軽質無水ケイ酸、結晶セルロース、ステアリン酸マグネシウム、炭酸水素ナトリウム、デキストリン、D-マンニトール、無水クエン酸、香料

#### (3) その他

特になし

### 3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない



#### 4. 製剤の各種条件下における安定性

○モンテルカスト 0D 錠 5mg 「武田テバ」

<加速試験> <sup>3)</sup>

通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

試験条件

保存条件	包装形態
40°C・75%RH	PTP+アルミ袋+紙箱

試験結果

試験項目	規格	開始時	6ヵ月
性状	白～淡黄色の口腔内崩壊錠	適合	適合
確認試験	紫外可視吸光度測定法	適合	適合
純度試験	類縁物質	適合	適合
製剤均一性	判定値が15.0%を超えない	適合	適合
崩壊性(秒)	60以内	適合	適合
溶出性(%)	(15分) 80以上	91～103	90～104
定量*1(%)	95.0～105.0	100.2±0.4	98.1±0.6

\*1 平均値±S.D.

[3ロット、n=3/ロット]

<PTP包装品の安定性試験> <sup>4)</sup>

全ての試験項目において、顕著な変化は認められなかった。

試験条件

保存条件	
光	15万lx・hr(白色蛍光ランプ)

試験結果

保存条件	外観	純度試験	含量残存率*1(%)
開始時	白色	適合	100
15万lx・hr	白色	適合	100

\*1 試験開始時を100とした

[n=3]

<無包装状態での安定性試験> <sup>1)</sup>

温度条件において外観変化が認められた。湿度条件において外観変化及び硬度低下が認められた。光条件において外観変化、溶出率・含量低下、及び類縁物質増加が認められた。

試験条件

保存条件		保存容器
温度	40、60℃	遮光・気密
湿度	25、30℃・75%RH	遮光・開放
光	15万、60万 lx・hr (25℃)	気密

試験結果

保存条件	外観*1	硬度 (kgf)	崩壊性	溶出率 (%)	含量残存率*2 (%)	<参考> 純度
開始時	白色	2.4	適合	92~103	100	適合
40℃、3ヵ月	白色 (微黄色の斑点)	2.8	適合	89~99	98	適合
60℃、6時間	白色 (淡黄色の斑点)	/	/	/	/	/
25℃・ 75%RH	1週間 白色	1.2	/	/	/	/
	3ヵ月 (淡黄色の斑点)	1.8	適合	88~98	101	適合
30℃・75%RH 6時間	白色 (淡黄色の斑点)	/	/	/	/	/
15万 lx・hr	微黄色 (褐色の斑点)	/	/	/	/	/
60万 lx・hr	淡黄色 (褐色の斑点)	2.4	適合	77~87 *3	85	不適合

\*1 口腔内崩壊錠 \*2 試験開始時を 100 とした

\*3 試料 12 個で試験を行い、5/12 個が規格に適合しなかった (判定：不適合)

○モンテルカスト OD 錠 10mg 「武田テバ」

<加速試験> <sup>5)</sup>

通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

試験条件

保存条件	包装形態
40℃・75%RH	PTP+アルミ袋+紙箱

試験結果

試験項目	規格	開始時	6ヵ月
性状	白～淡黄色の口腔内崩壊錠	適合	適合
確認試験	紫外可視吸光度測定法	適合	適合
純度試験	類縁物質	適合	適合
製剤均一性	判定値が 15.0%を超えない	適合	適合
崩壊性	60 以内	適合	適合
溶出性 (%)	(15分) 75 以上	86~100	87~98
定量 *1 (%)	95.0~105.0	100.1±0.5	99.0±0.4

\*1 平均値±S.D.

[3 ロット、n=3/ロット]

<PTP 包装品の安定性試験><sup>4)</sup>

全ての試験項目において、顕著な変化は認められなかった。

試験条件

保存条件	
光	15 万 lx・hr (白色蛍光ランプ)

試験結果

保存条件	外観	純度試験	含量残存率*1 (%)
開始時	白色	適合	100
15 万 lx・hr	白色	適合	99

\*1 試験開始時を 100 とした

[n=3]

<無包装状態での安定性試験><sup>2)</sup>

温度条件において外観変化が認められた。湿度条件において外観変化及び硬度低下傾向が認められた。光条件において外観変化、含量低下、及び類縁物質増加が認められた。

試験条件

保存条件		保存容器
温度	40、60℃	遮光・気密
湿度	25、30℃・75%RH	遮光・開放
光	15 万、60 万 lx・hr (25℃)	気密

試験結果

保存条件	外観*1	硬度 (kgf)	崩壊性	溶出率 (%)	含量残存率*2 (%)	<参考> 純度
開始時	白色	4.1	適合	89~98	100	適合
40℃、3 ヶ月	白色 (微黄色の斑点)	4.4	適合	91~94	99	適合
60℃、6 時間	白色 (淡黄色の斑点)	/	/	/	/	/
25℃・75%RH	1 週間 3 ヶ月	2.5 2.8	/	/	/	/
30℃・75%RH	6 時間	/	/	/	/	/
15 万 lx・hr	微黄色 (褐色の斑点)	/	/	/	/	/
60 万 lx・hr	淡黄色 (褐色の斑点)	4.0	適合	83~90	88	不適合

\*1 口腔内崩壊錠 \*2 試験開始時を 100 とした

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化 (物理化学的变化)

該当しない

## 7. 溶出性

### (1) 溶出挙動における類似性

○モンテルカスト OD錠 5mg 「武田テバ」<sup>6)</sup>

通知	「含量が異なる経口固形剤の生物学的同等性試験ガイドラインについて」 (平成 24 年 2 月 29 日、薬食審査発 0229 第 10 号)				
標準剤	モンテルカスト OD錠 10mg 「武田テバ」	処方変更水準	A 水準		
試験方法	日本薬局方一般試験法 溶出試験法 パドル法				
試験液	pH1.2 : 日本薬局方溶出試験の第 1 液				
	pH4.0 : 薄めた McIlvaine の緩衝液				
	pH6.8 : 日本薬局方溶出試験の第 2 液				
	水 : 日本薬局方 水				
試験液温	37±0.5℃	試験液量	900mL	試験回数	12 ベッセル

### <試験結果>

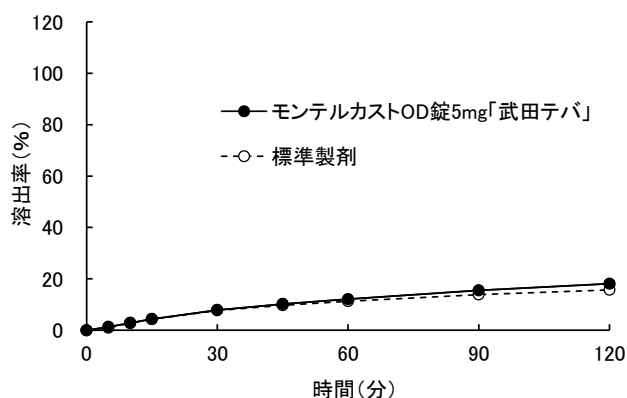
全ての試験条件において基準に適合したため、両剤の溶出挙動は同等であり、両剤は生物学的に同等であると判断した。

回転数 (rpm)	試験液	溶出挙動	判定
50	pH1.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>30 分及び 120 分の 2 時点において、試験剤の平均溶出率は標準剤の平均溶出率±6%の範囲にあった。</li> <li>120 分における試験剤の個々の溶出率について、試験剤の平均溶出率±9%の範囲を超えるものはなかった。</li> </ul>	適合
	pH4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>360 分における試験剤の平均溶出率は標準剤の平均溶出率±6%の範囲にあった。</li> <li>360 分における試験剤の個々の溶出率について、試験剤の平均溶出率±9%の範囲を超えるものはなかった。</li> </ul>	適合
	pH6.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>f2 関数の値が 61 以上であった。</li> <li>360 分における試験剤の個々の溶出率について、試験剤の平均溶出率±9%の範囲を超えるものはなかった。</li> </ul>	適合
	水	<ul style="list-style-type: none"> <li>15 分及び 360 分の 2 時点において、試験剤の平均溶出率は標準剤の平均溶出率±8%の範囲にあった。</li> <li>360 分における試験剤の個々の溶出率について、試験剤の平均溶出率±12%の範囲を超えるものはなかった。</li> </ul>	適合

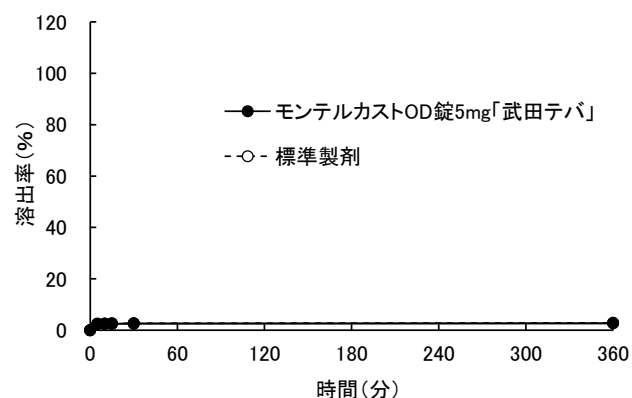
回転数 (rpm)	試験液	溶出挙動	判定
50	pH1.2※	<ul style="list-style-type: none"> <li>15分及び120分の2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±8%の範囲にあった。</li> <li>120分における試験製剤の個々の溶出率について、試験製剤の平均溶出率±12%の範囲を超えるものはなかった。</li> </ul>	適合
	pH4.0※	<ul style="list-style-type: none"> <li>30分及び360分の2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±6%の範囲にあった。</li> <li>360分における試験製剤の個々の溶出率について、試験製剤の平均溶出率±9%の範囲を超えるものはなかった。</li> </ul>	適合
	pH6.8※	<ul style="list-style-type: none"> <li>15分及び90分の2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にあった。</li> <li>90分における試験製剤の個々の溶出率について、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものはなかった。</li> </ul>	適合
100	pH6.8※	<ul style="list-style-type: none"> <li>15分及び30分の2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にあった。</li> <li>30分における試験製剤の個々の溶出率について、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものはなかった。</li> </ul>	適合

※ポリソルベート 80 添加

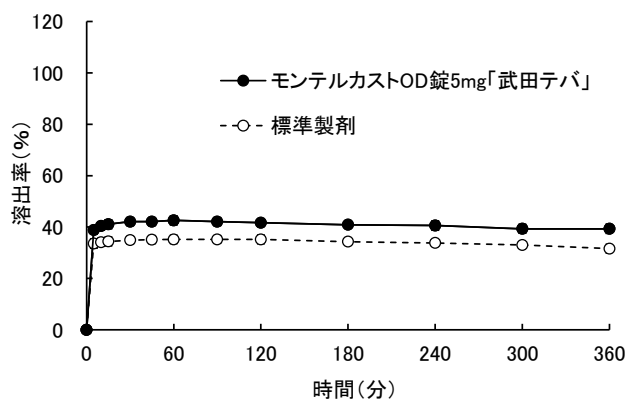
<pH1.2、50rpm>



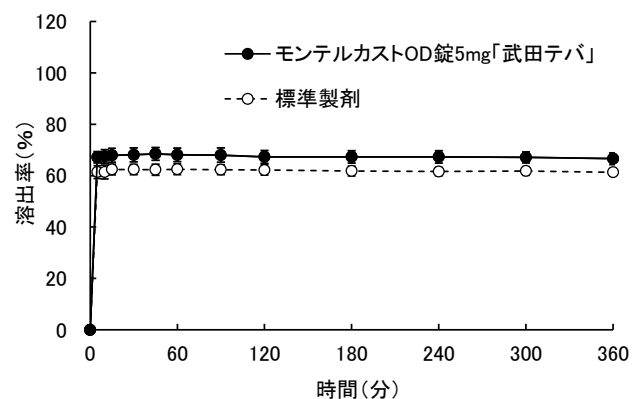
<pH4.0、50rpm>



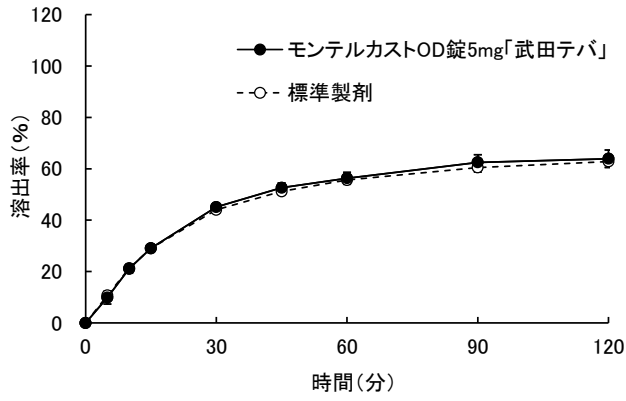
<pH6.8、50rpm>



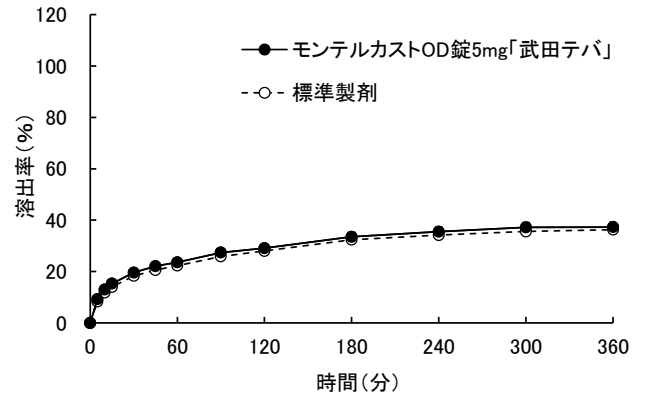
<水、50rpm>



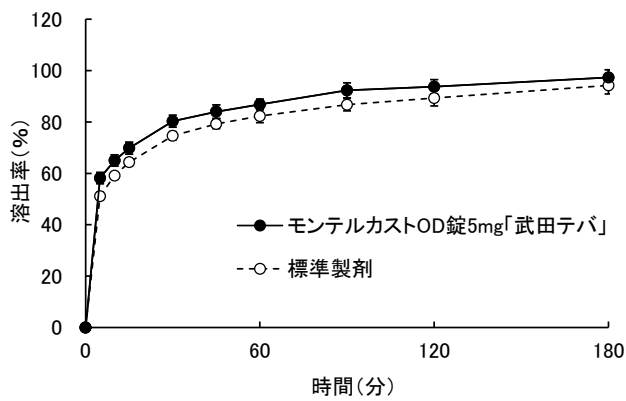
<pH1.2+ポリソルベート 80、50rpm>



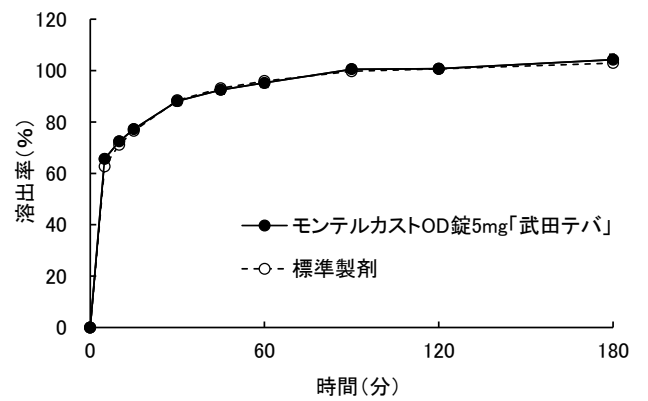
<pH4.0+ポリソルベート 80、50rpm>



<pH6.8+ポリソルベート 80、50rpm>



<pH6.8+ポリソルベート 80、100rpm>



○モンテルカスト OD錠 10mg 「武田テバ」<sup>7)</sup>

通知	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について」 (平成 24 年 2 月 29 日、薬食審査発 0229 第 10 号)				
試験方法	日本薬局方一般試験法 溶出試験法 パドル法				
試験液	pH1.2 : 日本薬局方溶出試験の第 1 液				
	pH4.0 : 薄めた McIlvaine の緩衝液				
	pH6.8 : 日本薬局方溶出試験の第 2 液				
	水 : 日本薬局方 水				
試験液温	37±0.5℃	試験液量	900mL	試験回数	12 ベッセル

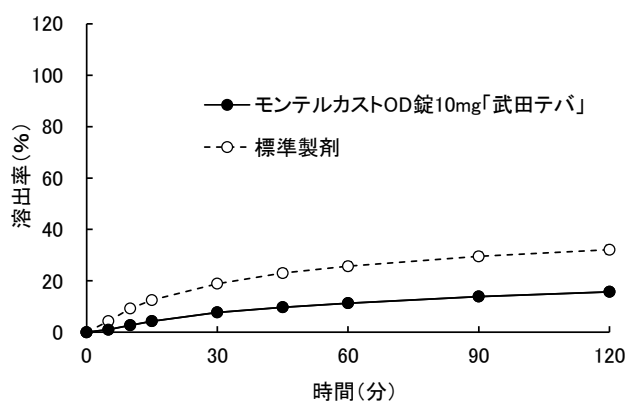
<試験結果>

pH1.2 (50rpm) 及び水 (50rpm) の試験条件において基準に適合しなかった。

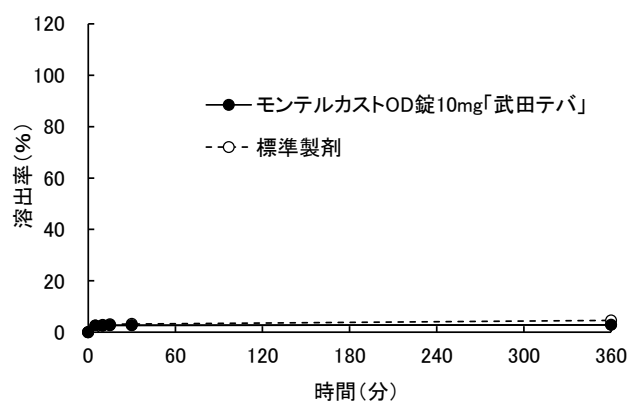
なお、両製剤のバイオアベイラビリティを比較した結果、両製剤は生物学的に同等であった。

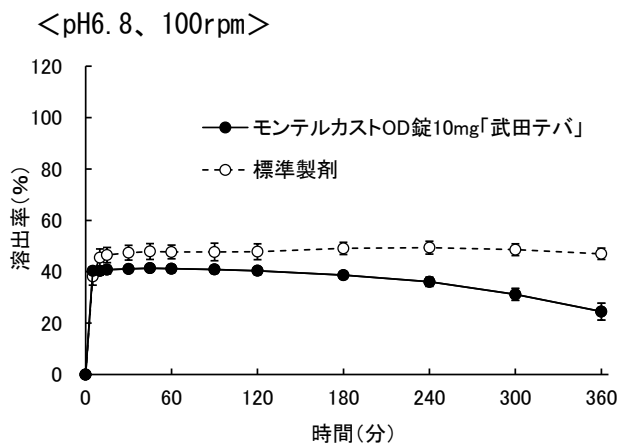
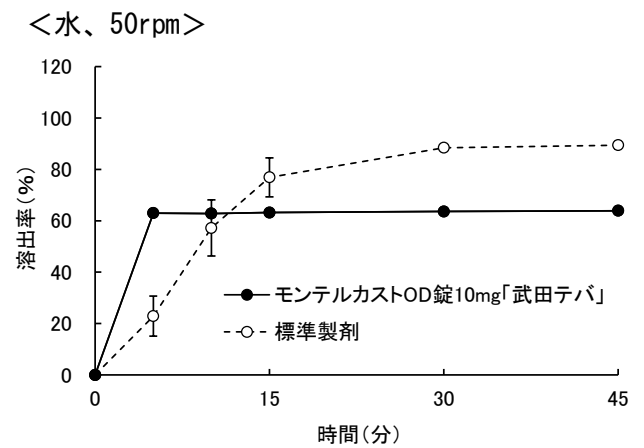
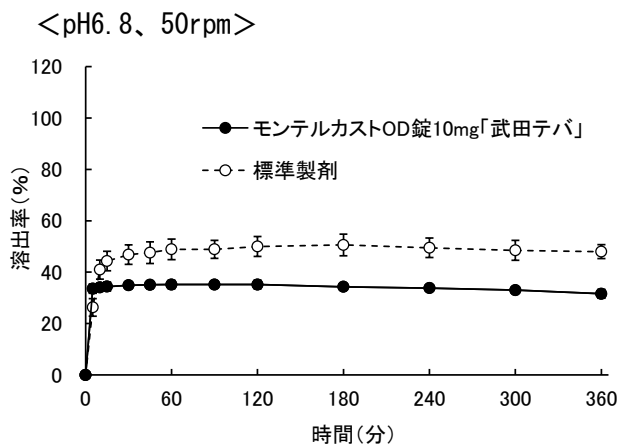
回転数 (rpm)	試験液	溶出挙動	判定
50	pH1.2	標準製剤が 120 分における平均溶出率の 1/2 の平均溶出率を示す 30 分、及び 120 分の 2 時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±9%の範囲になかった。また、f2 関数の値は 53 未満であった。	不適
	pH4.0	360 分における試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±9%の範囲にあった。	適合
	pH6.8	f2 関数の値が 46 以上であった。	適合
	水	試験製剤の平均溶出率は、15 分において標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあったが、標準製剤の平均溶出率の 85%付近となる時点 (30 分) において、その範囲になかった。また、f2 関数の値は 42 未満であった。	不適
100	pH6.8	15 分及び 45 分の 2 時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±9%の範囲にあった。	適合

<pH1.2、50rpm>



<pH4.0、50rpm>





8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

紫外可視吸光度測定法 (吸収スペクトル)

10. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当資料なし

14. その他

特になし



## V. 治療に関する項目

### 1. 効能又は効果

気管支喘息、アレルギー性鼻炎

### 2. 用法及び用量

＜気管支喘息＞

通常、成人にはモンテルカストとして10mgを1日1回就寝前に経口投与する。

＜アレルギー性鼻炎＞

通常、成人にはモンテルカストとして5～10mgを1日1回就寝前に経口投与する。

#### ＜用法・用量に関連する使用上の注意＞

- (1) モンテルカスト口腔内崩壊錠はモンテルカストチュアブル錠と生物学的に同等ではないため、モンテルカスト口腔内崩壊錠5mgとモンテルカストチュアブル錠5mgをそれぞれ相互に代用しないこと。
- (2) 気管支喘息及びアレルギー性鼻炎を合併し本剤を気管支喘息の治療のために用いる成人患者には、モンテルカストとして10mgを1日1回就寝前に経口投与すること。

### 3. 臨床成績

#### (1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

#### (2) 臨床効果

該当資料なし

#### (3) 臨床薬理試験

該当資料なし

#### (4) 探索的試験

該当資料なし

#### (5) 検証的試験

##### 1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

##### 2) 比較試験

該当資料なし

##### 3) 安全性試験

該当資料なし

##### 4) 患者・病態別試験

該当資料なし

#### (6) 治療的使用

##### 1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要  
該当資料なし

## VI. 薬効薬理に関する項目

### 1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

プラナルカスト水和物（ロイコトリエン受容体拮抗薬）

### 2. 薬理作用

#### (1) 作用部位・作用機序<sup>8) 9)</sup>

抗アレルギー薬である。アレルギーのメディエーターの1つであるロイコトリエン（LT）の受容体には、CysLT<sub>1</sub>受容体とCysLT<sub>2</sub>受容体があるが、本薬はCysLT<sub>1</sub>受容体遮断薬であり、気管支喘息やアレルギー性鼻炎に用いられる。

CysLT<sub>1</sub>受容体に選択的に結合し、炎症惹起メディエーターであるLTD<sub>4</sub>やLTE<sub>4</sub>による病態生理学的作用（血管透過性の亢進及び粘液分泌促進）を抑制する。

#### (2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

#### (3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

## VII. 薬物動態に関する項目

### 1. 血中濃度の推移・測定法

#### (1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

#### (2) 最高血中濃度到達時間

「VII-1. (3) 臨床試験で確認された血中濃度」の項参照

#### (3) 臨床試験で確認された血中濃度

○モンテルカスト OD錠 5mg 「武田テバ」<sup>6)</sup>

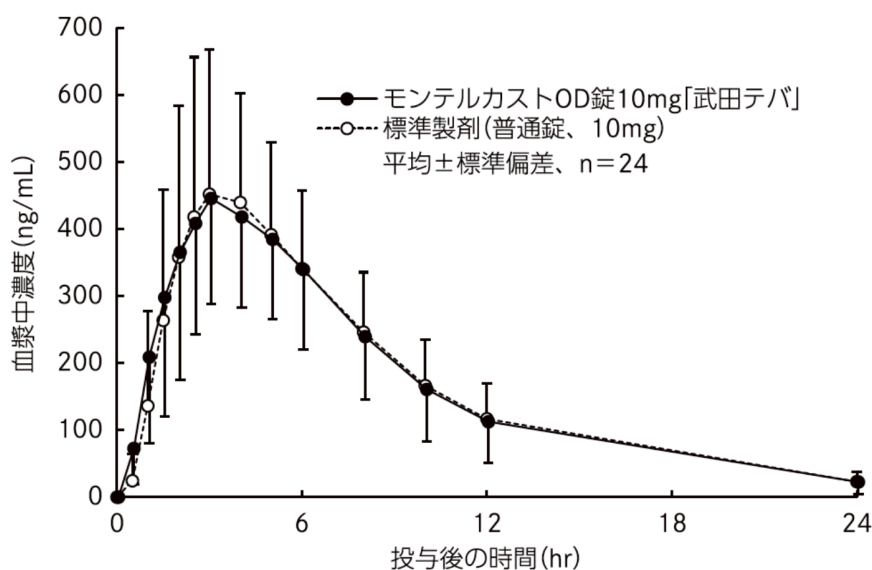
モンテルカスト OD錠 5mg 「武田テバ」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン（平成 24 年 2 月 29 日 薬食審査発 0229 第 10 号）」に基づき、モンテルカスト OD錠 10mg 「武田テバ」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。（「IV-7. 溶出性」の項参照）

○モンテルカスト OD錠 10mg 「武田テバ」<sup>10)</sup>

【水で服用時】

モンテルカスト OD錠 10mg 「武田テバ」と標準製剤（普通錠）を、クロスオーバー法によりそれぞれ 1錠 [モンテルカストナトリウムとして 10.4mg（モンテルカストとして 10mg）] 健康成人男子に水 150mL と共に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、C<sub>max</sub>）について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.80)～log(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

通知	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について」 （平成 24 年 2 月 29 日、薬食審査発 0229 第 10 号）		
被験者数	24 名		
投与方法	2 剤 2 期のクロスオーバー法	水 150mL と共に絶食単回経口投与	
投与量	製剤 1 錠（モンテルカストとして 10mg）		
採血時間	14 時点 （投与前、投与後 0.5、1、1.5、2、2.5、3、4、5、6、8、10、12、24 時間）		
休薬期間	6 日間	分析法	液体クロマトグラフィー／タンデム質量分析法



<薬物動態パラメータ>

(平均±標準偏差、n=24)

	投与量 (mg)	AUC <sub>0-24</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
モンテルカスト OD 錠 10mg 「武田テバ」	10	4049.03 ±1461.22	506.00 ±147.62	3.15±1.19	4.71±0.86
標準製剤 (普通錠、10mg)	10	4067.81 ±1423.55	531.94 ±193.23	3.27±1.10	4.83±0.91

<判定結果>

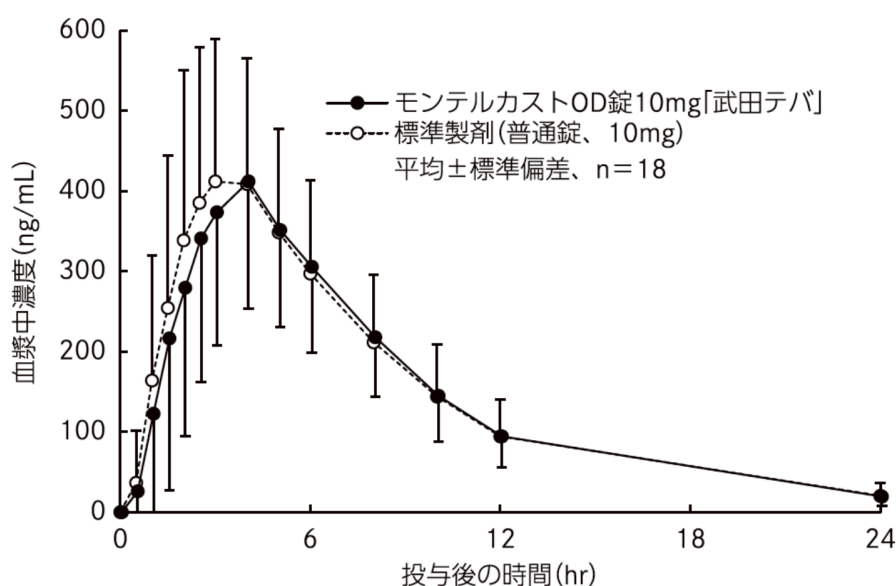
	AUC <sub>0-24</sub>	Cmax
平均値の差	log(0.99)	log(0.97)
90%信頼区間	log(0.91)~log(1.07)	log(0.87)~log(1.08)

血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

【水なしで服用時】

モンテルカスト OD 錠 10mg 「武田テバ」 を水なしで、標準製剤 (普通錠) を水 150mL と共に、クロスオーバー法によりそれぞれ 1 錠 [モンテルカストナトリウムとして 10.4mg (モンテルカストとして 10mg)] 健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ (AUC、Cmax) について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.80) ~ log(1.25) の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

通知	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について」 (平成 24 年 2 月 29 日、薬食審査発 0229 第 10 号)		
被験者数	18 名		
投与方法	2 剤 2 期のクロスオーバー法	水なしで絶食単回経口投与	
投与量	製剤 1 錠 (モンテルカストとして 10mg)		
採血時間	14 時点 (投与前、投与後 0.5、1、1.5、2、2.5、3、4、5、6、8、10、12、24 時間)		
休薬期間	6 日間	分析法	液体クロマトグラフィー/タンデム質量分析法



<薬物動態パラメータ>

(平均±標準偏差、n=18)

	投与量 (mg)	AUC <sub>0-24</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
モンテルカスト OD 錠 10mg 「武田テバ」	10	3496.86 ±1186.11	474.50 ±169.65	3.61±1.17	4.74±0.67
標準製剤 (普通錠、10mg)	10	3593.05 ±1224.58	493.65 ±148.37	3.25±1.27	4.73±0.87

<判定結果>

	AUC <sub>0-24</sub>	Cmax
平均値の差	log(0.97)	log(0.95)
90%信頼区間	log(0.91)～log(1.03)	log(0.87)～log(1.03)

血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

「Ⅷ-7. 相互作用」の項参照

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ<sup>8)</sup>

健康成人における生物学的利用率は 58～67%である。

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率<sup>8)</sup>

ヒト血漿蛋白結合率は 99.6%であり、生理的な濃度のアルブミン及び $\alpha_1$ -酸性糖蛋白質の両方に 99%以上結合する。

3. 吸収

該当資料なし

#### 4. 分布

##### (1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

##### (2) 血液－胎盤関門通過性

「Ⅷ－10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照

##### (3) 乳汁への移行性

「Ⅷ－10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照

##### (4) 髄液への移行性

該当資料なし

##### (5) その他の組織への移行性

該当資料なし

#### 5. 代謝

##### (1) 代謝部位及び代謝経路<sup>8)</sup>

ヒトにおける主要代謝物は側鎖メチル基の水酸化体及びベンジル位メチレン基の水酸化体である。これら代謝物の生成にはそれぞれチトクローム P450 (CYP) の分子種である CYP2C8/2C9 及び 3A4 が関与しており、CYP2C8 がモンテルカストの主要代謝酵素であった。さらに側鎖メチル基の水酸化体はカルボン酸体まで酸化的代謝を受ける。

##### (2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種

主として薬物代謝酵素チトクローム P450 (CYP) 2C8/2C9 及び 3A4 で代謝される。

##### (3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

##### (4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

##### (5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

#### 6. 排泄

##### (1) 排泄部位及び経路<sup>8)</sup>

モンテルカストの排泄経路は主に糞中であり、健康成人男性に 400mg を単回経口投与した場合、尿中に未変化体は検出されない。

##### (2) 排泄率

該当資料なし

##### (3) 排泄速度

該当資料なし

#### 7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

#### 8. 透析等による除去率

該当資料なし

## VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

### 1. 警告内容とその理由

該当しない

### 2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

### 3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

### 4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

「V-2. 用法及び用量」の項参照

### 5. 慎重投与内容とその理由

該当しない

### 6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

- (1) 本剤は、喘息の悪化時ばかりでなく、喘息が良好にコントロールされている場合でも継続して服用するよう、喘息患者に十分説明しておくこと。
- (2) 本剤は気管支拡張剤、ステロイド剤等と異なり、すでに起こっている喘息発作を緩解する薬剤ではないので、このことは患者に十分説明しておく必要がある。
- (3) 気管支喘息患者に本剤を投与中、大発作をみた場合は、気管支拡張剤あるいはステロイド剤を投与する必要がある。
- (4) 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイドの減量をはかる場合は十分な管理下で徐々に行うこと。
- (5) 本剤投与によりステロイド維持量を減量し得た患者で、本剤の投与を中止する場合は、原疾患再発のおそれがあるので注意すること。
- (6) モンテルカスト製剤との因果関係は明らかではないが、うつ病、自殺念慮、自殺及び攻撃的行動を含む精神症状が報告されているので、患者の状態を十分に観察すること。〔「その他の注意」の項参照〕
- (7) モンテルカスト製剤を含めロイコトリエン拮抗剤使用時に Churg-Strauss 症候群様の血管炎を生じたとの報告がある。これらの症状は、おおむね経口ステロイド剤の減量・中止時に生じている。本剤使用時は、特に好酸球数の推移及びしびれ、四肢脱力、発熱、関節痛、肺の浸潤影等の血管炎症状に注意すること。
- (8) 本剤投与により効果が認められない場合には、漫然と長期にわたり投与しないように注意すること。

### 7. 相互作用

本剤は、主として薬物代謝酵素チトクローム P450(CYP)2C8/2C9 及び 3A4 で代謝される。

#### (1) 併用禁忌とその理由

該当しない



## (2) 併用注意とその理由

併用に注意すること		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
フェノバルビタール	本剤の作用が減弱するおそれがある。	フェノバルビタールが CYP3A4 を誘導し、本剤の代謝が促進される。

## 8. 副作用

### (1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

### (2) 重大な副作用と初期症状

#### 重大な副作用（頻度不明）

- 1) **アナフィラキシー**：アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
- 2) **血管浮腫**：血管浮腫があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
- 3) **劇症肝炎、肝炎、肝機能障害、黄疸**：劇症肝炎、肝炎、肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。
- 4) **中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN）、皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）、多形紅斑**：中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。
- 5) **血小板減少**：血小板減少（初期症状：紫斑、鼻出血、歯肉出血等の出血傾向）があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

### (3) その他の副作用

次のような症状又は異常があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症	皮疹、そう痒、蕁麻疹、肝臓の好酸球浸潤
精神神経系	頭痛、傾眠、情緒不安、不眠、幻覚、めまい、感覚異常（しびれ等）、異夢、易刺激性、痙攣、激越、振戦、夢遊症、失見当識、集中力低下、記憶障害、せん妄、強迫性症状
呼吸器	肺好酸球増多症
消化器系	下痢、腹痛、胃不快感、嘔気、胸やけ、嘔吐、便秘、口内炎、消化不良
肝臓	肝機能異常、AST（GOT）上昇、ALT（GPT）上昇、Al-P 上昇、 $\gamma$ -GTP 上昇、総ビリルビン上昇
筋骨格系	筋痙攣を含む筋痛、関節痛
その他	口渇、尿潜血、血尿、尿糖、浮腫、倦怠感、白血球数増加、尿蛋白、トリグリセリド上昇、出血傾向（鼻出血、紫斑等）、動悸、頻尿、発熱、脱毛、挫傷、脱力、疲労、遺尿

### (4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

下記の項目参照

VIII-2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

VIII-8. (2) 重大な副作用と初期症状 1) 4)、(3) その他の副作用：過敏症

9. 高齢者への投与

該当資料なし

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。海外の市販後において、妊娠中にモンテルカスト製剤を服用した患者から出生した新生児に先天性四肢奇形がみられたとの報告がある。これらの妊婦のほとんどは妊娠中、他の喘息治療薬も服用していた。モンテルカスト製剤とこれらの事象の因果関係は明らかにされていない。〕
- (2) 授乳中の婦人に投与する場合は慎重に投与すること。〔動物実験（ラット）で乳汁中への移行が報告されている。〕

11. 小児等への投与

＜気管支喘息＞

- (1) 6歳以上の小児に対しては、モンテルカストチュアブル錠 5mg を 1日1回就寝前に投与すること。
- (2) 1歳以上6歳未満の小児に対しては、モンテルカスト細粒 4mg を 1日1回就寝前に投与すること。
- (3) 1歳未満の乳児、新生児、低出生体重児に対するモンテルカスト製剤の安全性は確立していない。〔国内でのモンテルカスト製剤の使用経験がない。〕

＜アレルギー性鼻炎＞

小児等に対するモンテルカスト製剤の安全性は確立していない。〔国内でのモンテルカスト製剤の使用経験がない。〕

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

- (1) 薬剤交付時：以下の点について指導すること。
- 1) PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。〔PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。〕
- 2) 吸湿性を有するため、使用直前に PTP シートから取り出すこと。
- (2) 服用時：舌の上のにせ唾液を湿潤させ舌で軽くつぶし、崩壊後唾液のみで服用可能である。また、水で服用することもできる。

(3) 食事の有無にかかわらず投与できる。

#### 15. その他の注意

プラセボ対照臨床試験 41 試験を対象に統合解析を行った結果、モンテルカスト製剤投与群 9,929 例中 1 例において自殺念慮が認められたのに対して、プラセボ群 7,780 例において自殺念慮は認められなかった。

また、プラセボ対照臨床試験 46 試験を対象に統合解析を行った結果、行動変化に関連する事象（不眠、易刺激性等）が、モンテルカスト製剤投与群 11,673 例中 319 例（2.73%）、プラセボ群 8,827 例中 200 例（2.27%）において認められたが、統計学的な有意差は認められなかった。

#### 16. その他

該当しない

## Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

### 1. 薬理試験

- (1) 薬効薬理試験（「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照）

該当資料なし

- (2) 副次的薬理試験

該当資料なし

- (3) 安全性薬理試験

該当資料なし

- (4) その他の薬理試験

該当資料なし

### 2. 毒性試験

- (1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

- (2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

- (3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

- (4) その他の特殊毒性

該当資料なし

## X. 管理的事項に関する項目

### 1. 規制区分

製 剤：該当しない  
有効成分：該当しない

### 2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年（安定性試験結果（加速）に基づく）

### 3. 貯法・保存条件

遮光、室温保存（開封後は湿気を避けて保存すること）

### 4. 薬剤取扱い上の注意点

#### (1) 薬局での取り扱い上の留意点について

光・吸湿により変色することがある。アルミピロー開封後は光・湿気を避けて保存すること。

#### (2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

「Ⅷ-14. 適用上の注意」の項参照

- ・吸湿性を有するため、使用直前に PTP シートから取り出すこと。
- ・患者向医薬品ガイド：有り
- ・くすりのしおり：有り

#### (3) 調剤時の留意点について

特になし

### 5. 承認条件等

該当しない

### 6. 包装

- モンテルカスト OD 錠 5mg 「武田テバ」 PTP包装：100錠（10錠×10）
- モンテルカスト OD 錠 10mg 「武田テバ」 PTP包装：60錠（10錠×6）

### 7. 容器の材質

PTP包装：ポリ塩化ビニル・ポリ塩化ビニリデン多層フィルム、アルミニウム箔、アルミニウム・ポリエチレンラミネートフィルムピロー

### 8. 同一成分・同効薬

同一成分薬：シングレア OD 錠 10mg、キプレス OD 錠 10mg  
同 効 薬：プラナルカスト水和物

### 9. 国際誕生年月日

該当しない

### 10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製品名	製造販売承認年月日	承認番号
モンテルカスト OD 錠 5mg 「武田テバ」	2016年8月15日	22800AMX00515000
モンテルカスト OD 錠 10mg 「武田テバ」		22800AMX00514000

製造販売一部変更承認年月日：2016年11月30日（効能効果、用法用量追加による）

11. 薬価基準収載年月日

2016年12月9日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

<2016年11月30日：追加>

気管支喘息

：通常、成人にはモンテルカストとして10mgを1日1回就寝前に経口投与する。

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

製品名	HOT(9桁)番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト 電算コード
モンテルカスト OD錠 5mg 「武田テバ」	125239201	4490026F5058	622523901
モンテルカスト OD錠 10mg 「武田テバ」	125240801	4490026F4078	622524001

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

## XI. 文献

### 1. 引用文献

- 1) 武田テバファーマ株式会社内資料（無包装状態での安定性試験：OD錠 5mg）
- 2) 武田テバファーマ株式会社内資料（無包装状態での安定性試験：OD錠 10mg）
- 3) 武田テバファーマ株式会社内資料（加速試験：OD錠 5mg）
- 4) 武田テバファーマ株式会社内資料（PTP包装品の安定性試験）
- 5) 武田テバファーマ株式会社内資料（加速試験：OD錠 10mg）
- 6) 武田テバファーマ株式会社内資料（溶出試験：OD錠 5mg）
- 7) 武田テバファーマ株式会社内資料（溶出試験：OD錠 10mg）
- 8) 第十七改正日本薬局方解説書（2016）
- 9) 高久史麿 他監修：治療薬マニュアル 2016，医学書院，2016
- 10) 武田テバファーマ株式会社内資料（生物学的同等性試験：OD錠 10mg）

### 2. その他の参考文献

特になし

## XII. 参考資料

### 1. 主な外国での発売状況

該当しない

### 2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし



## XIII. 備考

その他の関連資料